

最新・中国漢方事情

北陸大学薬学部准教授

劉 園英

薬局での中醫師による診断を解禁

生薬棚が並ぶ一角で、患者さんを診察し薬を処方する中醫師（中国医学の医師）。今日それは中薬店（中醫生薬を扱う薬局）の店先でよく見かける光景だが、実は2001年に薬局での医師による診察や医療相談などを禁止する法令が出されて以来、長らく見かけることはなかった。

中国医学の伝統として、中薬店で診察して欲しいという国民の声により、河北省、遼寧省、江西省など一部の地域で条件付きで試験的に復活したのは2007年。翌年には全国的に解禁となった。

確かに、ちょっとした風邪なら、長時間待たされる病院へ行く必要も無く便利だと思う人々の気持ちは理解できる。しかし、この復活劇の背景には、深刻な医師不足や、都市部と農村部との医療格差、さらに統一されない医療保険制度など現代中国が抱えるさまざまな課題が見え隠れしている。

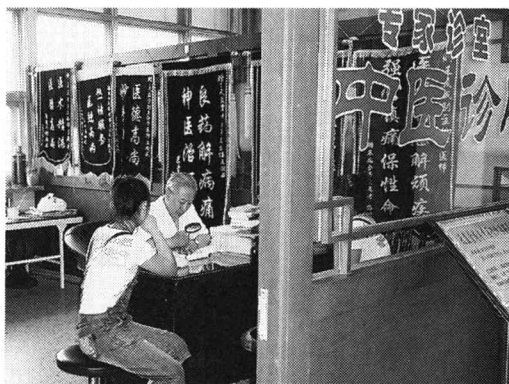
健康中国2020年計画

これらを解消するため、2009年2月に中国衛生部は「健康中国2020年計画」を発表した。

これは2020年までに都市部と農村部すべての国民に基本的な医療サービスが受けられるように、医療制度を整備するという政策で、これによって国民の平均寿命を75歳に引き上げると宣言している。

この計画のテーマは人間の健康であり、その基本原則として、中国医薬と現代医薬の両立と（中国医薬の主体的地位を保った上での）協調を掲げている。

WHOが世界伝統医学と認定した中国医学と西洋医学とが共存する中国ならではの施策であるといえる。



中薬店の一角に設けられた中醫師の診察スペース（筆者撮影）

薬局のチェーン店と薬剤師資格制度

さて、ここで中国の薬局事情に話を移そう。政府は現代的医薬物流と薬局チェーン店の建設を加速し、

大衆が使用する医薬品が手に入りやすいように保障している。

手元の資料によると、2007年末現在、全国には医薬品卸売企業が1万3千社あり、医薬品小売企業と薬局を運営する企業は34万1千社。農村の医薬品供給網・店舗は55万4千カ所あり広範な大衆の医薬品使用の需要を大いに満たしている。

しかし、これにより専門薬剤師不足という新たな課題が浮かび上がってきた。

中国では薬剤師のグローバル化を目指し、1994年、1995年に「薬剤師資格制度規定」と「中薬師資格制度規定」を相次いで発表した。これは、日本や欧米と比べてあまりにも遅いスタートだと言える。2010年、薬剤師資格取得者は20万人に達成する見込みとなっているが、93万9千人の需要に対して、まだ3分の1にしか満たない。

薬剤師資格取得者が思うように増加しない理由として、規定違反に対する罰則がないこと。国家試験が難しすぎ、数十年臨床に専念している人でさえも合格できないことなどがあげられる。

実際、中国には専門薬剤師がいない薬局が数多くある。日本では考えられないことだが、両国の医療事情の違いは、健康に対する考え方の違いに起因しているとは私は考える。



中医医院で鍼治療を体験する本学学生(筆者撮影)

医療でも日中協力が重要

私が日本に来て驚いたのが「薬膳」という言葉だった。日本では、体調が悪くなると病院へ駆け込み、薬や注射を処方してもらう。薬好きな国民に思われる。

一方、中国では、少し体調が優れないと思ったら、まずは食事で工夫をしてみる。それでも、よくならないようだったら病院で漢方を処方してもらう。これでほとんどの場合は回復する。病院に行くのはもっと症状が重いか急性期の患者だけだ。中国で生活している人にとって食べ物が体に良いものであることは当たり前で、薬と食事を分けて考える日本人の発想に戸惑いを覚えずにいられなかった。

テレビなどで映し出される、中国の早朝の風景。太極拳やジョギングなど、市民が思いおもいに運動を生活に取り入れている。中国の医療事情は日本と比べるとまだまだ発展途上であると言わざるをえない。その反面、だからこそ病気になるまい、健康維持に取り組む養生の精神が発達してきたのだとも言える。

中国の健康を実現する上での問題は、医療だけではない。人々を取り巻く環境の問題を抜きにして健康を考えることはできない。新聞テレビ等の報道で明らかにされたように、急激な経済成長の裏には、深刻な環境汚染が潜んでいる。大気汚染、水質汚染、食の安全の問題等が国民の健康に重くのしかかっている。

医療先進国でありながらも後期高齢者問題、医療費問題などに頭を抱える日本と、医療や環境で大きな問題を抱えながらも病気にかからないための養生の精神を重んじる中国。状況や立場は違えども、両国の国民の健康のために、お互いに学び合い、協力していけることがあるのではないだろうか。

(『DANTOTSU 薬立』Vol.2, 2009より転載)